



بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ  
يَا أَيُّهَا النَّاسُ إِنَّا خَلَقْنَاكُمْ مِنْ ذَكَرٍ وَأُنْثَىٰ وَجَعَلْنَاكُمْ  
لُحُومًا وَضَبَالًا لِّتَذَكَّرُوا إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِنْدَ اللَّهِ أَتْقَىٰكُمْ إِنَّ  
اللَّهَ عَلِيمٌ خَبِيرٌ  
وَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ:  
يَا أَيُّهَا النَّاسُ آلا إِنَّ رَبِّكُمْ وَاحِدٌ وَإِنَّ أَبَائَكُمْ وَاحِدٌ...

### そんけい すべき ムスリム の みなさま!

かつてよげんしゃ ﷺ の ムアズィン を つとめる めいよ を えて いた ビラール・アル=ハバシー (ra) と、すぐれた きょうゆう の ひとり アブー・ザッル (ra) が、あらしい になつた こと がありました。あらしい の なか で、アブー・ザッル (ra) が ビラール の こと を「くろい おんな の むすこ」とよんだ、と した アッラー の しと ﷺ は、アブー・ザッル に こう けいこく しました。「アブー・ザッル よ! はは の はだ の いろ を りゆう に、おまえ は ビラール を おとしめ、はずかしめ よう と した のか。それなら おまえ は、いまだ に ジャーヒリーヤ を ひきずる もの だ。」<sup>1</sup>

### しんあい なる しんこうしゃ の みなさま!

わたしたち の すこう な しゅうきょう で ある イスラーム に したがる なら、すべて の ひと は ことば や じんしゅ、はだ の いろ、せいべつ、しゅうは や しんじょう の べつ なく、だれもが かけ ある、そんちよう される べき せんざい です。にんげん は、あらしい ひそづつ の なか で もっとも ほまれ たかい せんざい であり、その せんげん に みあつた じんせい を おくる に ふさわしい せんざい です。だれ であろう と その せいめい、ざいさん、めいよ は おもんじられねば ならず、しんがい されて は なりません。わたしたち の あいだ には、タクワー、すなわち しゅ (swt) に そむく こと なく、しゅ の めいじる ところ に したがい、しゅ の よろこび を える こと いがい に、たがいの ゆうれつ を はかる もの は ありません。じつ に ホトバ の はじまり に いんよう した しょうく の なか で、ぜんろう の アッラー (swt) は つぎ の よう に つげて おられます。「ひとびと よ。ほんとう に われら は あなたがた を おとこ と おんな と に そうぞう し、また みんぞく と ぶぞく に して おいた。これは あなたがた に、たがいの こと を しりあう よう に させる ため。アッラー の みもと に おいて は、あなたがた の なか で もっとも とうとい もの とは、あなたがた の なか で もっとも おそれる もの の こと。ほんとう に アッラー は すべて を しり、じゅくち して いる。」<sup>2</sup> また、わたしたち の よげんしゃ ﷺ は、ハディース の なか で ぜんじんるい に たいし こう つたえて います。「ひとびと よ、あなたがた の しゅ は ゆいいつ で あり、また あなたがた の ちち アーダム も ゆいいつ で ある。ただ タクワー (とくしん) の ほかに、アラブ が ひアラブ より も、あるいは ひアラブ が アラブ より も すぐれて いる など という こと も なければ、しろい もの が くろい もの より も、あるいは くろい もの が しろい もの より も すぐれて いる、など という こと も ない。」<sup>3</sup>

### しんあい なる しんこうしゃ の みなさま!

せかい への じひ と して つかわされた よげんしゃ ﷺ は、**لَا تَحْسَبُوا ، وَلَا تَدَابَرُوا ، وَلَا تَبَاغَضُوا ، وَكُونُوا عِبَادَ اللَّهِ إِخْوَانًا** 「たがいに ねたまず、たがいに せを むけず、たがいを にくむな。アッラー に つかえる もの たち よ、たがいに どうほう で あれ」<sup>4</sup> と、わたしたち に けいこく して います。ですから、あいて の けんり と ほう と を そんちよう しましょう。たがいの ちがい こそ、わたしたち の さいだいの ざいさん である と かんがえ ましょう。あい と やさしさ の きずな で つながり しましょう。**إِنَّمَا الْمُؤْمِنُونَ إِخْوَةٌ فَأَصْلِحُوا بَيْنَ أَخَوَيْكُمْ** 「しんこうしゃ は ひとつ の どうほう で ある。どうほう どうし、ちようわ しなさい」<sup>5</sup> と めいじ られて いる とおり、はかいてき に ではなく、けんせつてき で あり ましょう。ぶんれつ する の で ではなく、だんけつ しましょう。「たましい を きず つけては ならない、アッ=ラフマーン の ぎよくざ を きず つけては ならない」という かんせい を もち、しゅうい に いる すべて の ひと に、また いのち ある もの にも そうで ない もの にも、あい と おもいやり を もつて せつし しょう。わたしたち の だんけつ と れんたい、しゃかい の へいわ と あんてい を そこねる あらしい ことば や たいど、こうどう に ていこう する よう つとめ しましょう。だんけつ と れんたい、どうほうあい を もち つづける かぎり、こくふく でき ない しょうがい も、かいけつ でき ない もんだい も ない という こと を わすれ ない よう に しましょう。

<sup>1</sup> Muslim, Ayman, 38; Bukhari, Iman, 22.

<sup>2</sup> Hujurat, 49/13.

<sup>3</sup> Ibn Hanbal, V/411

<sup>4</sup> Bukhari, Adab, 57.

<sup>5</sup> Hujurat, 49/10.